

B-55 絹織物のドレープ性について

大阪市大 家政 岩崎錦 柴山恵里子

帝塚山学院短大 田中道一

目的 絹織物は衣服として着装した場合、美しいドレープを生じ、特に和服において身体に適合した美しい曲線を出す性能を有する。ドレープ性に関して、量的には一般に Hamburger のドレープ係数が用いられ、Cusick によりこの係数は布の曲げ剛さと剪断性によって定まることが報告されている。しかし試験片の垂下長がある長さ以上になると、ドレープしたヘムは内側へ入り込み、深絞りの状態となって、従来の FRL 法では真のドレープ曲線が得られない。本報告ではこの点に関する実験、検討を行なう。

方法 支持台直径は 5.5 cm, 絹およびシルクライク織物の円形試験片直径は 22 cm とした。枠にのせた透明ガラス板上に支持台を置き、これに試験片をセットする。ついでガラス板の下方からドレープさせた試験片を撮影する。この写真により、真のヘム曲線および最大輪郭曲線 (FRL 法で得られるものと同様) に囲まれた各面積 A_h , A_o を求め、両者の差 ($A_o - A_h$) の A_h に対する比率を算出し、これを深絞り率とした。

結果 深絞り率は、絹錦紗 16.2%, ポリエステル錦紗 13.1%, メンデルちりめん 11.9%, キュプラ錦紗 10.5%, ベンゾエイト デシン 1.4% となり、曲げ剛さが小さく、剪断性が大きい織物の深絞り率が大きであった。深絞り量が大きで、さらにその分布が均質な布は、身体の曲線によく適合し、美しいシルエットを出し得ると考えられる。